

## オオタカ（タカ科）

毎年の事であるが、11月1日は秋田県内の狩猟解禁日となっている。

大浦沼は禁猟区等に指定されていないことから、主要な狩場となっています。日の出時間前には何名ものハンターが押し寄せてきます。

多数のカモ類が渡りの中継地点として羽を休めていたが、早朝の銃声に驚き逃げ惑い、一部は犠牲になった仲間もいます。多数のカモたちは、禁猟区の雄物川方向へと逃げ去っていった。大浦沼は、白鳥や、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、そして天然記念物のマガンなどが羽を休める貴重な中継地であるが、解禁日以降は誰も寄り付きません。



鋭い眼光で獲物を探す。

しかし4~5日も経過するとハンターの姿は見かけなくなり、沼にはオオバンがいち早く戻って来た。10羽ほどから徐々に増え続け、10日後には40羽にも達した。

そのあとコガモ、マガモ、オナガガモなど冬鳥たちが増え始め、かつての賑わいが戻ってきました。丁度この頃を待っていたかのように、オオタカが現れた。杉林の繁みに隠れるように身を潜め、獲物となる弱いカモなどに狙いを定めているようだ。頭を左右に振り、距離を測っているようだ。

次の瞬間、両脚で止まり木を勢いよく蹴りながら飛び出していった。



狙いを定めたようだ。



勢いよく飛び出していった。

一気に降下すると、水面すれすれの状態で真横に飛びながらスピードを上げていった。

これではカモたちも不意を突かれた状態でしょう。その後の狩りが成功したかどうかは分かりません。オオタカは成鳥と若鳥が日替わりで現れたこと、身を潜める繁みもほぼ同じ場所であったことから、親子ではないかと想定されます。



若鳥であるが目つきは鋭い。



大浦沼はカモ類だけでなく、猛禽類にとってもなくてはならない場所である。